

# アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

## 1 岩手県立大学のアドミッション・ポリシー

### ■建学の理念

「自然」、「科学」、「人間」が調和した新たな時代を創造することを願い、人間性豊かな社会の形成に寄与する、深い知性と豊かな感性を備え、高度な専門性を身につけた自律的な人間を育成する大学を目指します。

### ■大学の基本的方向

- ・豊かな教養の修得と人間尊重の精神の涵養
- ・学際的領域を重視した特色ある教育・研究
- ・実学・実践重視の教育・研究
- ・地域社会への貢献
- ・国際社会への貢献

### ■求める学生像

岩手県立大学の建学の理念と基本的方向に共感し、「深い知性と豊かな感性を備え、高度な専門性を身につけた自律的な人間」として育成するのに相応しい学生

### ■入学者選抜の基本的な考え方

- (1) 入学者選抜は、岩手県立大学の建学の理念や各学部の教育理念、教育プログラム、求める学生像等に相応しい入学者を公正かつ的確に見出すという観点から行います。
- (2) 入学者選抜においては、学力検査に偏ることなく、入学志願者の個性や資質、意欲等多様な潜在能力にも配慮した多面的な選抜方法を採用します。
- (3) 入学試験においては、多様な選抜区分と選考方法を採用することによって、暗記型の知識ではなく、理解力、論理的思考力、判断力、表現力、着眼の独創性などを試します。
- (4) 地域の進学需要への対応と岩手県の明日を担う人材の育成という岩手県立大学の設立の趣旨を踏まえ、岩手県及び岩手県民に貢献するため、岩手県内高校の卒業生等を対象とする選抜区分を設け、入学定員の3割を当該選抜区分に充てます。

## 2 各学部のアドミッション・ポリシー

看護学部	社会福祉学部
<p><b>■教育理念</b> 看護の実践を基本とした高度な専門的知識・技術、幅広い教養とともに、看護の援助を必要とする人々の立場に立ち、科学的に判断し、主体的な看護を展開する能力を養うことを重視した教育を行います。</p> <p><b>■教育プログラム</b> 看護学部では、看護の専門職者として人々の健康な生活を推進していくために必要な多くの教養科目や看護学、そして関連する学問領域の知識や技術を修得します。1年次から専門科目や臨地実習を行うなど、早い時期から看護学への関心を高めるようなカリキュラム編成にしています。科目の構成は「看護心身機構学」「基礎保健学」「人間学」「医療学」からなる『専門基礎科目』、看護学を具体的に学修する『基幹科目』と『実習』、それらをふまえた総合的で専門性の高い看護学について学ぶ『関連科目』『統合科目』から成り立っています。また、学内選考の結果によって『保健学科目』『助産学科目』『教職科目』の何れかが履修可能です。</p> <p><b>■求める学生像</b> 看護学部では、基礎学力を身につけ、人間と自然、社会に深い関心を持ち、科学的に探究しようという情熱や熱意があり、看護を通して社会に貢献しようという志のある学生を求めています。また、自分の考えを自分の言葉で表現することができるだけでなく、柔軟な考えを持ち、相手が伝えようとしていることに耳を傾け、多角的な視点から課題に取り組み、解決策を探ることができる学生を求めています。</p> <p><b>■選抜の基本方針</b> 看護学部の入学者選抜には、推薦入試、一般入試（前期日程・後期日程）があります。</p> <p>(1) 推薦入試では、小論文と面接により評価します。小論文では、読解力(和文・図表などを正確に読みとる能力)と論理的思考力(的確な分析にもとづいて論理的に考える能力)、文章表現力(分かりやすい表現で記述する能力)を評価します。面接では、大学で看護学を学ぶことに対する意欲、適性、コミュニケーション能力や表現力を総合的に評価します。</p> <p>(2) 一般入試（前期日程・後期日程）では、大学入試センター試験、小論文、面接により評価します。大学入試センター試験では、高等学校等において身につけた基礎学力を評価します。小論文では、読解力(和文・図表などを正確に読みとる能力)と論理的思考力(的確な分析にもとづいて論理的に考える能力)、文章表現力(分かりやすい表現で記述する能力)を評価します。面接では、大学で看護学を学ぶことに対する意欲、適性、コミュニケーション能力や表現力を総合的に評価します。後期日程では、小論文と面接を重視します。</p>	<p><b>■教育理念</b> 社会福祉学部は、「人間の尊重と福祉社会への貢献」という教育理念を基本として掲げ、幅広い教養、高度な専門的知識・技術とともに、問題解決能力を身につけた、人間性豊かで、情熱と行動力のある人材を育てることを教育目標とします。</p> <p><b>■教育プログラム</b> 社会福祉学部には、社会福祉学科と人間福祉学科の二つの学科があります。社会福祉学科では、個人に対する直接的援助からそれを可能にする制度・政策までを視野に入れ、統合的に問題解決にとりくむことのできる人材を育成するカリキュラムとしています。一方、人間福祉学科では、発達科学や心理学、人間工学など隣接する対人援助の諸科学を学び、社会福祉の基礎に立ってそれらを応用的に実践できる人材を育成するカリキュラムを構成しています。</p> <p><b>■求める学生像</b> 社会福祉学部において求める学生像は、社会福祉に対して興味・関心・情熱をもち、知的探究心や好奇心をもって主体的に勉学に取り組むことのできる学生、問題を総合的に分析し、的確に判断して、自分の考えを的確に表現できる学生、そして自らの課題を設定し、先頭に立って課題解決を推進していくことができるとともに、相手と交互に議論ができるコミュニケーション能力を有している学生です。</p> <p><b>■選抜の基本方針</b> 入学志願者の個性や資質、社会福祉に対する意欲等、多様な潜在能力に配慮しながら、AO入試、推薦入試、一般入試（前期日程・後期日程）など多様な選抜区分を採用しています。</p> <p>(1) AO入試では、面接と提出書類により、能力及びこれまでの活動・目的意識・意欲・目標の実現可能性(本学の教育目標と受験者の目標との整合性について)を総合的かつ多面的に評価します。</p> <p>(2) 推薦入試では、小論文と面接をおこないます。小論文では、理解力、問題発見力、思考力、論理性、表現力を、面接では、志望動機、意欲、適性、表現力などを評価します。</p> <p>(3) 一般入試（前期日程）では、大学入試センター試験の成績を合否判定に利用し、総合問題を行います。総合問題では、基礎学力と、社会に関する諸問題を素材に、理解力、論理的思考力、表現力などを評価します。</p> <p>(4) 一般入試（後期日程）では、大学入試センター試験の成績を合否判定に利用し、小論文と面接を行います。小論文では、理解力、問題発見力、思考力、論理性、表現力を、面接では、志望動機、意欲、適性、表現力などを評価します。</p>

## ■教育理念

コンピュータサイエンスに立脚し、地域に根ざした実学・実践の教育研究を通して「人に優しい情報化社会」の実現に寄与することができる人材の育成を目指します。

- (1) 利用者の立場に立ってソフトウェアの設計・開発ができる、深い知性と豊かな感性を備えたソフトウェア人材の育成
- (2) 世界に通用する独創的なソフトウェアを設計・開発することのできる人材及び大規模なソフトウェアを設計・開発・管理することのできる人材の育成

## ■教育プログラム

- (1) コンピュータサイエンスを基本とし、基礎から応用までの幅広い教育内容－社会のニーズにあった最新の授業内容を、実学実践を基本とした演習重視のカリキュラムで学ぶことができます。
- (2) 1年次からの研究室配属：入学から卒業まで、研究室のメンバー（教員・1～4年生）同士で密なコミュニケーションをとりながら人間性や社会に役立つ実力を培うことができます。
- (3) 演習重視に対応した学習環境の提供：学生それぞれが演習などの学習に専念できるように専有のコンピュータや学習スペース等を一人ひとりに提供しています。
- (4) 複数学年参加のプロジェクト型授業：複数学年の学生がチームを組み、学生が主体となりながらプロジェクトを企画・実施することで、専門性と人間性の両方の成長が期待されます。

## ■求める学生像

コンピュータやソフトウェア、情報に強い関心や興味を持っている次のような学生を求めています。

- (1) 人間、社会に対して強い関心や興味がある学生
- (2) 将来、社会で役に立ちたいという夢や希望を持っている学生
- (3) よく観察し、筋道を立てて考え、自分の考えを人に伝えることができる学生
- (4) 高校で学ぶ内容の中で得意科目や得意分野、特技を持っている学生

## ■選抜の基本方針

ソフトウェア情報学部の入学者選抜には、AO入試、推薦入試（一般、専門学校・総合学科）、一般入試（前期日程、後期日程）があります。

- (1) AO入試では、これまでの活動実績、入学後に取り組みたい内容や将来の夢などについて、提出書類と面接により総合的かつ多面的に評価します。
- (2) 推薦入試では、基礎学力、論理的思考力、志望動機、適性などを総合判定資料と国数英により総合的に評価します。
- (3) 一般入試では、得意科目や得意分野、基礎学力、論理的思考力、数的処理能力などを大学入試センター試験と個別学力検査により総合的に評価します。

## ■教育理念

総合政策学部では、さまざまな領域において、みずから取り組むべき問題を発見し、そのメカニズムを理解し、解決に向けて思考できる人材を育成します。学生がさまざまな学問の成果を駆使して総合的に探究し、問題を解決しようとする思考プロセスを大切にします。

## ■教育プログラム

総合政策学部では、学生が関心をもった問題そのものが「専門領域」です。解決に必要な学問をいくつも組み合わせ、自分の問題に取り組むという姿勢が重要になります。したがって、カリキュラムでは従来の縦割的な学問体系の壁を乗り越え、問題解決型の知的探究を行う場を提供します。文理を問わずに講義・演習・実習がある、多彩なメニューになっています。その中からどの分野を重点的に学ぶのかは、学生自身の選択に任されています。

## ■求める学生像

- (1) 現実社会へ目を向け、現場の問題を、その解決に取り組む人たちと一緒に考えることのできる学生を求めています。
- (2) 現実の問題に取り組むためには、他の専門分野の考え方も理解する必要があります。基礎学力を身につけた上で、自分の専門分野を磨きつつ、他の分野の人たちとも積極的にコミュニケーションをとっていかうとする学生を求めています。
- (3) 枠にとらわれずに自己を磨き、型におさまらない学生を求めています。一言でいえば、総合政策学部の求める学生像は「社会への関心を広げ、自己を磨く学生」です。

## ■選抜の基本方針

総合政策学部の入学者選抜には、AO入試、推薦入試、一般入試（前期日程、後期日程）があります。

- (1) AO入試では、面接と提出書類により、能力及びこれまでの活動・目的意識・意欲・目標の実現可能性（本学の教育目標と受験者の目標との整合性について）を総合的かつ多面的に評価します。
- (2) 推薦入試では、「小論文＋面接」によって、総合政策学部で学ぶのに必要な問題意識をもっているかどうかが問われます。
- (3) 一般入試では、前期日程・後期日程のいずれでも、センター試験の5教科すべてを受験しなければなりません。これは、大学で幅広い分野の勉強をするための基礎知識が求められているからです。個別学力検査は、前期日程では「総合問題」を、後期日程では「小論文」を行います。前期日程の「総合問題」では日本文・英文・図表など、資料の内容を正確に読みとる能力が試されます。後期日程の「小論文」では、自分の主張を筋道たててわかりやすく述べる能力が試されます。